



学生が選ぶインターンアワード 静岡県立大・上原ゼミが入賞

静岡県立大経営情報学部の上原克仁准教授のゼミ活動がこのほど、「第5回学生が選ぶインターンシップアワード」で入賞した。菊川市と連携し、同市のふるさと納税額の増加に向けて返礼品を提案、発信する一連の取り組みが評価された。

企業にふるさと納税の新規返礼品を提案する石井さん、田中さん、望月さん＝2021年10月、静岡市駿河区企業にふるさと納税の新規返礼品を提案する石井さん、田中さん、望月さん。

同アワードは、学生の職業観の育成に効果的なインターンシッププログラムを表彰・周知する取り組み。全国の企業や大学、地方自治体が645プログラムを応募し、学生や有識者による審査で10プログラムが選ばれた。

活動したのは、4年生の田中彩恵さん（22）、石井杏奈さん（21）、望月豪士さん（21）の3人。昨年8月から半年間、全国のふるさと納税返礼品を分析し、学生目線で同市内の魅力ある返礼品を探して企業に提案した。

菊川市産の自然薯（じねんじょ）を使う老舗とろろ汁店「丁子屋」（静岡市駿河区）の商品や、雑貨店の普段使いができるアクセサリなど、6企業の19品目が採用された。新規返礼品で104万円の納税があった。

3人は「特色ある商品を探すのに苦労した」と振り返る。Instagramの開設など情報発信にも取り組み、「企業側の思いにも配慮し、相手に伝わる見せ方を考えさせられた」と話す。

アワードは「実践的な内容と地域貢献を実現した模範的なプログラム」と評価した。



菊川市の魅力を伝える情報発信の取組みについて意見交換



自然薯を活用したふるさと納税返礼品について話し合う

静岡県立大ゼミ生が就業体験 富士の企業で採用サイト制作

静岡県立大上原ゼミの学生が17日、富士市のペット用シートメーカー「コーチャョー」で「インターンシップ」を始めた。学生4人が12月まで同社と連携し、大学生向けの採用サイトを制作する。

県内の企業や団体の課題解決に学生が取り組むフィールドワークの一環。若手人材確保が課題である同社は大学生に訴求する採用ページ制作を依頼した。

17日は3年生3人が同市厚原の同社に赴いて生産工場などを見学して事業への理解を深めた。同社の担当者が会社の沿革や主力商品などを説明。ペットシートで業界上位に入る状況や紙やおから、木くずを活用した猫砂生産などSDGsの取り組みを伝えた。学生の関心はSDGsの取り組みに集まった。

今後打ち合わせを重ね、秋のウェブサイト完成を目指す。同社総務部の寺田健悟さんは「学生が求める情報を若者に聞くのが一番」と成果に期待した。



(株)コーチャョーと大学生向け採用サイトの制作について
打合せ

ふるさと納税増収へ 菊川市に県立大生3人提案 SNS活用や返礼品追加

菊川市のふるさと納税の寄付額増加に向けて活動してきた県立大の学生3人が7日、オンラインで報告会を行った。会員制交流サイト（SNS）を活用したPRや主力返礼品の追加など取り組みの成果を説明し、情報発信の強化を提案した。

3人はいずれも経営情報学部3年の石井杏奈さんと田中彩恵さん、望月豪士さん。エース級不在だった返礼品リストに菊川市産の自然薯（じねんじょ）を扱う老舗とろろ汁店「丁子屋」（静岡市駿河区）の商品を加えた実績を振り返り、「人気が高い寄付額1万円台の返礼品を充実させるべき」「返礼品の良さを伝える取り組みが必要」などと求めた。

報告を受けた赤堀慎吾副市長は「大学生の創造力、企画力はこれからのまちづくりに非常に有効。今後も連携を模索していきたい」と感謝した。



ふるさと納税の拡充に向けて学生が菊川市幹部に
提言した報告会＝市役所

プロジェクトは2021年7月に始まった。学生が事業者との個別折衝などを展開し、冷凍とろろ汁セットやアクセサリー類など6企業19商品を返礼品に追加した。写真共有アプリ「Instagram」のアカウント開設も手掛けた。